

2023 年度 学校法人 三幸学園 東京ウェディング&ブライダル専門学校 自己評価報告書

自己評価報告責任者：副校長 末安 由香

1. 学校の教育目標

学園のビジョン「人を活かし、日本をそして世界を明るく元気にする」、ミッション「人を活かし、困難を希望に変える」のもと、ウェディング分野の学校として「最幸の結婚式を通じて、日本そして世界の家族を明るく元気にする」というビジョンを掲げている。

また「技能と心の調和」を教育理念とし「素直な心、感謝の気持ち、高い意欲を持ち続け、自ら考え、自ら行動することで、社会に貢献する人材」、ウェディング分野として「最幸の結婚式を創り上げることを通じて、新郎・新婦だけでなく、その家族、その人生も幸せにできるNo. 1のプランナー・コーディネーターとなる人材」を育成する人物像とし、専門学校として社会・業界に求められる人材の育成を進めている。

2. 前年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画

① 前年度重点施策振り返り

(1) 重点施策

「ブライダル業界で活躍できる人材を育成する」をゴールとし、「社会人意識を持つ→職業観を養う→自信がつく→プロ意識を持つ」というステップを2年間の育成軸として指導を行う。また、【授業・学校生活を通して身に付ける社会人基礎力】、【授業を通して身に付ける専門知識や技術】をベースに、2年間で必要な力を行事と連動しながら身に付けることができる生徒指導を行う。

(2) 振り返り

・行事を通してコミュニケーション能力の強化をはかるため、比較的コミュニケーションが苦手な傾向にあるブライダルヘアメイク&ドレス科の1年生の行事(模擬挙式・ドレスショー)を、クラス混合で行った。生徒からは、クラスを超えて友人が増えたという声も多く、学科としてまとまりが出た。一定の成果を収めたため、2024 年度も継続して行っている。

・2023 年度の教務スローガンは「ルールとリレーション」であった。授業や学校生活上の「ルール」(学生にとって学びやすい環境にするための決まり)と、クラスメイト同士で本音の交流をし、プラスとなる(支え合う・励まし合う)関係性を築く「リレーション」が高いクラスを作ることを目標としていた。しかし、卒業生アンケートの「入学時点で提示された学校の規律は最後まで徹底されていたか」という項目に関して、2022 年度よりも低い結果となった。このため、2024 年度の教務目標は「授業の環境設定の徹底」に設定した。1年次の最初に行う「スタートアッププログラム」の継続を両学年ともに目指す。

・企業訪問を行い、伺った現場の声を生徒指導に活用するため、会議内で企業担当者からの勉強会を実施した。また、放課後に任意で参加できる就活サークル(1年生対象)を5月から行い、職種の理解をより深めるために業界出身の教員が経験談を話し、質問に応じる機会を週に2～3回設けている。

3.評価項目の達成及び取組状況

(1)教育理念・目標

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか（専門分野の特性が明確になっているか）	4
社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	3
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが生徒・保護者等に周知されているか	4
各学科の教育目標、育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4

① 課題

・社会経済のニーズ等を踏まえた学校の将来構想

留学生やリカレント教育に対しての対応ができていない状態である。また昨今生徒の家庭環境も多様化・複雑化しているため、それぞれの生徒に合わせた対応をしていくことが求められる。

② 今後の改善方策

昨年度に引き続き心の問題を抱えている生徒に対して、スクールカウンセラーの周知と促しを行っていく。また、新しい制度としてスクールソーシャルワーカーを今年度は活用し、心の問題だけでなく、家庭や生活環境で問題を抱えている生徒に対して、関係機関等との連携や調整を行ってもらうことにより、生徒の生活の質の向上をはかる。

③ 特記事項

なし

(2)学校運営

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4
事業計画に沿った運営方針が策定されているか	4
運営組織や意思決定機能は、規則等において明確化されているか、有効に機能しているか	4
人事、給与に関する制度は整備されているか	4
教務・財務等の組織整備など意思決定システムは整備されているか	4
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4
教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3

① 課題

・情報システム化による業務の効率化

作業効率をあげるため、今後に残せる授業データの蓄積や、Teams を活用した情報共有・データ共有を進めている。業務効率は上がってきているが、残業時間の大幅な短縮には至っていない。特に、授業データがない教科に関しては、新しい担当教員がはじめてから作成をしているという現状がある。

② 今後の改善方策

多くの教員が時間を割いている授業準備の時間を削減するための施策が必要である。全国に姉妹校がある強みを利用し、引き続きパワーポイントを中心とした授業データの蓄積を続けるとともに、並行して ICT ツールを積極的に取り入れていきたい。

③ 特記事項

なし

(3)教育活動

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4
目標の設定として、教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4
関連分野の企業・関係施設等、業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4
授業評価の実施・評価体制はあるか	4
職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	3
成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	4
資格（免許）取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4
人材育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保し、組織できているか	4
関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含め）の提供先を確保するなどマネジメントが行われているか	4
関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4

① 課題

特に問題なし

② 今後の改善方策

今後も適正な運営を継続していく

③ 特記事項

なし

(4)学修成果

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
就職率の向上が図られているか	4
資格（免許）取得率の向上が図られているか	4
退学率の低減が図られているか	3
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3
卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4

① 課題

・退学率の低減

前年度と比較すると 1.9%増加して、7.6%の退学率となった。同分野の姉妹校と比較すると決して大幅な退学率増加とはいえないが看過できない事態である。主たる退学理由としては目標喪失や人間関係などがあげられる。

・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価

連携が円滑に進められている企業様を除き、全ての卒業生の評価の把握はできていない。

② 今後の改善方策

・退学率の低減

まずは生徒が毎日学校に登校することが何よりの退学防止に繋がると考え、退学率目標とともに出席率目標も設定する。生徒が受けなくなる授業を展開するために教員の授業スキルアップに繋がる機会を多く作っている。例えば、学園の教育開発部の研修への促しや、授業見学 WEEK の設定などが挙げられる。また、2 年生有志による放課後相談会を開き、1 年生が教員だけでなく先輩にも相談しやすい環境を今年度から取り入れる。同時に、退学防止のためのアンケートを1年生に実施し、直接教員や先輩に相談はできない生徒の声も拾い上げている。

・卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価

2022 年度卒業生(2023 年 3 月卒)を対象とした同窓会を実施する。卒業生同士の交流を促すのはもちろんのこと、卒業生向けの研修を行うことで「卒業後も頼れる学校」という認識を持ってもらいたい。

③ 特記事項

なし

(5) 学生支援

【評価項目】（評価＝適切：4、ほぼ適切：3、やや不適切：2、不適切：1）	評価
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4
学生相談に関する体制は整備されているか	4
学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	4
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4
課外活動に対する支援体制は整備されているか	4
学生の生活環境への支援は行われているか	4
保護者と適切に連携しているか	4
卒業生への支援体制はあるか	3
中途退学者への支援体制はあるか	3
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	3
高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4

① 課題

・卒業生への支援体制

卒業生ネットワークサイト「Sanko Link」の定着ができていないのが現状。教職員の異動も多いため、学校（元担任）と卒業生全体での繋がりが希薄になり、離職状況が完全に把握できていない。

・社会人のニーズを踏まえた教育環境

卒業後の学びなおしの機会の場は提供できていない。

② 今後の改善方策

卒業生ネットワークサイトだけに頼るのではなく、卒業生の LINE の取得を積極的に行いより連絡を取りやすくすることで、卒業生への支援につなげていきたい。新たな卒業後の試みとして、短いスパンで単年度の卒業生のみの小規模な同窓会を開催することによって、参加率のアップにつながるよう仕組み化を行う。また企業訪問の際に卒業生にどんな支援をしたら良いかをヒアリングし、今後の施策の方向性を決定していきたい。

③ 特記事項

なし

(6)教育環境

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	4
学内外の実習施設,インターンシップ,海外研修等について十分な教育体制を整備しているか	4
防災・安全管理に対する体制は整備されているか	4

① 課題

・インターンシップの教育体制

インターンシップを選択する生徒の割合、継続する生徒の割合が高くないため現場経験を積むことなく就職する生徒が多数を占めることになる。また、契約期間が過ぎた後に延長する生徒が半分以下となっている。

② 今後の改善方策

インターンシップはもちろん業界内アルバイトの斡旋も行っていくことで即戦力として活躍することができる人材を育成したい。インターンシップの授業の中では、業界で働くことの大切さを重点的に指導。職種の理解や、就活への影響について伝えている。インターンシップを選択はしないが、アルバイトとして結婚式会場で働く生徒の数を増やすことにより、現場経験をいち早く積み、即戦力になるような生徒を育成していく。

③ 特記事項

・海外研修制度あり

・インターンシップは選択科目として運営

(7)学生の入入れ募集

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学生募集活動は、適正に行われているか	4
学生募集活動において、教育成果は正確に伝えられているか	4
入学選考は、適性に行われているか	4
学納金は妥当なものとなっているか	4

① 課題

特に問題なし

② 今後の改善方策

今後も適正な運営を継続していく

③ 特記事項

なし

(8)財務

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4
予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4
財務について会計監査が適正に行われているか	4
財務情報公開の体制整備はできているか	4

① 課題

【中長期計画】

なし

【予算・収支計画】

なし

【会計監査】

なし

【財務情報の公開】

なし

② 今後の改善方法

【中期計画】

今期は第 3 次中期計画(2023 年度～2027 年度)の初年度であり、ホームページ上に公開している。今後は当該計画の達成状況等についても公開予定である。

【財務情報の公開】

なし

③ 特記事項

なし

(9)法令等の遵守

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
関係法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4
自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4
自己評価結果を公開しているか	4

① 課題

特に問題なし

② 今後の改善方策

今後も適正な運営を継続していく

③ 特記事項

なし

(10)社会貢献・地域貢献

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	4
生徒のボランティア活動を奨励、支援しているか	3
地域に対する公開講座・教育訓練（公共職業訓練等を含む）の受託等を積極的に実施しているか	4

① 課題

・生徒のボランティア活動奨励・支援

ボランティアに参加することで成長できる旨を生徒に発信はしているが、支援までには至っていない。

② 今後の改善方策

地域に根付いた学校を目指して、姉妹校と合同で「SANKOふぁみりーEXPO」と名付けて、イベントを実施予定。
イベント当日は、地域の保育園・幼稚園のこども達から高校生までを対象に、在校生たちが日ごろの学びを活かしてブースを運営し、職業理解や職業体験を目的に実施する。（2024 年 11 月 16 日実施予定）

③ 特記事項

なし

(11)国際交流(必要に応じて)

【評価項目】（評価＝適切:4、ほぼ適切:3、やや不適切:2、不適切:1）	評価
留学生の受入れ・派遣について戦略を持って国際交流を行っているか	3
受入れ・派遣、在席管理等において適切な手続き等がとられているか	4
学習成果が国内外で評価される取組を行っているか	3
学内で適切な体制が整備されているか	4

① 課題

・留学生の受け入れ体制

毎年数名のオープンキャンパス参加者はいるものの、実際に入学をする留学生は少ないため、今後はさらに積極的に取り組む。

② 今後の改善方策

留学生にブライダル業界や学校の認知を広める必要があるため、日本語学校との情報交換を行う。

③ 特記事項

2023 年度にウェディングプランナー科が留学生キャリア形成促進プログラムの認定を受けた。

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

本校も開校 10 年を経過したことから学校運営の基礎ができ、大きな問題は起きにくくなっている。だからこそよりきめ細かく在校生支援、卒業生支援、地域貢献等に努めていきたい。

在校生数増に伴い退学者数も増加してしまったことは遺憾である。退学率低減は至上命題と捉えて引き続き力を入れていきたい。